

現在毎年千を超える清涼飲料水の新商品が生まれるそうですが、継続するものは数種類です。消費者に支持されるものは、従来の物より現代にマッチした物です。例えば今までの缶コーヒーは、一気に飲み切る物でしたが、ペットボトルに入れ蓋をつけて「ちびだら飲み」を可能にしたらヒット商品になりました。ロングセラーの製品は、新しい販売先を見つけたり、新しい工夫がされています。同じ形態で続いてきたわけではありません。30年売られている「午後の紅茶」は、アウトドア製品を開発し、お湯で飲む暖かい物を冷茶風にしたりにしてトップの座を守ってきました。紅茶は100度、日本茶は60度と、湯沸かし器コマーシャルで言っていますが、少し小さくくりのように思えます。同じ会社のコマーシャルの中でお茶や紅茶のプロが、茶葉が変わればわずかな温度の違いが味を作ると言っています。大手のドリンクメーカーは、時代の最大公約数に合わせて大量販売を目指しますが、日本茶や紅茶等の専門店には、茶葉に合わせた情報を広める必要があります。ここでドリンク茶と本物は違う事、つまり消費者に別物として区別する考え方を持ってもらうことが必要になります。そのためには、売っているお茶の特性と何度ぐらいで飲むのがベストか、味のこだわりに対しての湯の温度、茶葉の量の目安も顧客に伝える必要があります。客にこだわりを持ってもらうのです。下記の茶器は信楽焼です1月から揃えます。ペットのボトルのごみ問題は、大きな変化をもたらす予感がします。

信楽焼の土の風合いが、極上の茶葉へと変え、そして上質な時間を与えてくれます。



W916-004 ¥1,500 夕影汲出し
φ80×H45mm

W916-003 ¥6,000 夕影急須(210cc)
W155×D135×H90mm



GB6-0020-03
3,500円

急須(1):約16×13×9.5cm:約230ml、
湯呑(2):約φ8.5×5cm:約50ml、



W915-002 ¥1,800 銅彩湯冷まし
W100×D100×H50mm

W915-003 ¥4,800 銅彩宝瓶(110cc)
W115×D105×H75mm



W915-005 ¥3,000 凌風湯冷まし
W110×D105×H55mm

W915-006 ¥5,400 凌風宝瓶(80cc)
W120×D120×H70mm



G5-2705

G5-002705 紬湯呑 560円 (8.5φ×5cm)

G5-002706 紬急須(化) 2,200円 (16×13×9.5cm)

G5-2706



W916-007 ¥3,500 南部急須(300cc)
W180×D145×H90mm

W916-08 ¥800 南部汲出し φ90×H30mm



G5-002717 練込急須(化) 400cc
6,500円 (16×14.5×10.5cm)



W916-0011 ¥6,800 古民芸土瓶(650cc)
W175×D135×H120mm